

## 記録誌の刊行にあたって



日本観測史上最大となるマグニチュード9.0を記録した大地震は、東日本の広範囲に甚大な被害をもたらし、栗原市では最大震度7という大きな揺れに見舞われました。あの東日本大震災が発生した、平成23年3月11日から1年が過ぎました。

栗原市にとっては、平成20年岩手・宮城内陸地震で受けた被害からの完全復興へ一歩一歩進みながら、さらなる発展に向けて取り組んでいるさなかの被災でありました。

市内では、3月11日の本震と4月7日に発生した震度6強の余震によって、家屋への被害や電気、水道、燃料などのライフラインが寸断されるなど、未曾有の被害に見舞われましたが、先の内陸地震の経験と教訓を生かしながら、市民一人一人が自助・共助の精神の下、自主防災組織などを中心に、企業や多くの方々のご協力によって、この困難に立ち向かうことができた実感しております。

また、大津波による被害が甚大だった沿岸部の自治体では、その機能も停止状態に陥りましたことから、南三陸町への仮設庁舎の建設支援や初動体制整備に関する指導、イスラエル医療チームへの活動支援、避難者受け入れなど、自治体の枠を超えた協力を行ってまいりました。

この度の記録誌の刊行は、栗原市が3度の大地震に見舞われた中で経験したさまざまな教訓と、未だ終息を迎えていない放射能問題などへの対応を後世に正しく伝えるために作成いたしました。また、大震災の記憶と失われました多くの尊い命を忘れることなく、人と人との強い「絆」を大切にし、共に生き、前進するための記録でもあります。

最後に、多くの皆さまからいただきましたご支援ご協力に深く感謝するとともに、一日も早い東日本大震災からの復興と「市民が創る くらしたい栗原」の実現に向け、皆さまのご協力をお願い申し上げ、刊行にあたってのあいさつとさせていただきます。

平成24年4月

栗原市長 佐藤 勇